

地域包括ケアに関する取組み

博多区

令和7年3月末現在

○概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】

博多区は、JR博多駅、博多港、福岡空港を抱える陸・海・空の玄関口であるとともに、国道3号が区内を縦断する交通の中枢となっている。

博多駅を中心とする北部の都市部と、都市周辺、南部の郊外住宅地に大別される。生活の便が良い地域が多いが、空港の東側の丘陵地など、高齢者にとっては不便な地域もある。

【高齢者の状況（高齢化率等）】

高齢化率は市内で最も低いが、区内の地域間での差は大きい。高齢者の世帯状況は、高齢者がいる世帯のうち、43%が単身世帯(R2国勢調査)であり、市内で2番目に高い。

また、博多駅周辺にはオートロックのマンションが多く、見守りや地域へのつなぎ支援が難しい。

【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】

社会資源・地域コミュニティともに地域の差は大きい。特に都心部は、住民の関係性が希薄化しており、地域での見守りや支援体制がとりにくい状況にある。同職種の専門職同士のつながり強化についても、専門職の入れ替わりも多いため、「切れ目のない」体制づくりが難しい。

医療と介護の事業所が連携し、地域貢献活動を行う事業所ネットワークが7団体立ち上がっている。さらに、情報交換や支え合いを目的とした事業所ネットワークの連合体「ワンチームHAKATA」が形成されている。

人口（人）	233,201
高齢者数（人）	43,384
高齢化率（%）	18.6
小学校区数 （自治協議会数）	18 (22)
いきいきセンター 圏域数	8

○地域包括ケアに関する現状と課題

○博多区では単身高齢者が多い中、支援が必要な高齢者の把握に努めるとともに、各種団体の横のつながりを一層強化する必要がある。

○在宅医療の推進と、救急医療のひっ迫を緩和するために、日頃からの備えやACPの普及、住民同士の交流や共助が重要である。

○権利擁護の視点では、成年後見制度が必要な方へ情報を届け、利用促進を図るとともに、広く市民に周知していくことが重要である。

1. 令和7年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

(1) 「校区プラン（福祉のまちづくりプラン）」を活用した、継続した支え合いの取組みを支援

自治協を中心に校区住民で作成された「校区プラン」の取組みを、定期的に振り返り、

校区ぐるみの取組みが継続・充実されるよう、支援を準備する。【博多区校区プラン作成 19校区・地区】

【見える化】

【プランの活用】

【校区課題の共有】

高齢者
地域支援会議



支援・協力

「校区プラン」づく



- ・地域の研修会などでの「校区プラン」のふりかえり
- ・健康福祉のまちづくり懇談会での「校区プラン」を利用した意見交換



【取組みの継続】

地域の実情
に応じて「校
区プラン」の
取組みを進
める

区役所、区社協、包括支援センター、医療・介護事業所ネットワーク

(2) 堅粕校区「これからの暮らし方講座」～一人暮らしになったら～

堅粕公民館主催事業として、高齢者向けの総合的な講座（5回）を令和6年度開催。令和7年度も内容を更新し、開催予定。

内容：①一人暮らしの高齢者の課題、②高齢者への詐欺、③認知症、④介護、⑤終活
対象：堅粕校区高齢者等

特徴：①公民館が中心となり、高齢者の課題に関して、総合的・体系的な講座を開催。

②講師や関係機関の連携し、地域の高齢者にもわかりやすい内容とした。

③広報・集客にも力を入れ、多くの住民が参加。



2. 令和6年度の取組み状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

【検討内容】 高齢者虐待対応事例、成年後見制度を含む権利擁護が必要な事例、認知症の方への支援 等

個別支援会議開催状況 ・会議回数：82回（うち、介護予防型個別支援会議16件）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

■ 大浜地区の「プラン」策定による地域包括ケアの推進

「大浜福祉座談会」

大浜地区では、できるだけ地域で暮らしていけるまちを目指して、自治会長を始め、多くの地域団体や民生委員などによる「大浜福祉座談会」を2回（①R6年5月、②R6年8月）開催し、地区の今後について意見を出し合った

プラン策定（R6年12月）



「語ろう・創ろう・大浜」講座（R7年2月）

プランを基に、テーマ別に分かれて、地域役員等で、具体的な取り組みについて話し合った

次の取り組みへ

高齢者地域支援会議 開催状況
 開催校区：博多区全22校区（地区）で実施、延べ62回
 【内訳】・「校区プラン」作成、ふりかえり等：8校区（地区）、延べ29回
 ・「健康福祉のまちづくり懇談会」：21校区（地区）、延べ21回
 ・地域包括支援センター主催：10校区（地区） 延べ12回（高齢者の見守り支援、ACPへの取組み 他）

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

（1）多職種連携研修会

【多職種連携実行委員会】博多区医師会、博多区歯科医師会、博多区薬剤師会、訪問看護ステーション会、ケアマネット博多等による医療と介護に携わる職能団体による協議・意見交換会の開催。
 【研修テーマ】①オーラルフレイルと口腔機能低下症 ②在宅医療での認知症対応 ③骨粗鬆症の診断と治療

（2）オーラルフレイル予防の啓発

・区の取り組みについて、区歯科医師会と共有。多職種連携研修会で、取り組みの紹介とお口の健康動画の配信やパンフレットの設置協力依頼を実施。
 ・区歯科医師会・県歯科衛生士会・区保健福祉センター連名で作成したパンフレットなどを活用し、全校区でオーラルフレイル予防普及啓発に関する講話を実施。74回延べ1,518人。

（3）事業所ネットワークの立ち上げ支援

・8圏域中、2圏域でネットワークの立ち上げに向けて活動中。
 【活動内容】
 ・事業所同士の顔の見える関係づくり
 ・認知症サポーター養成講座の展開による地域貢献活動

圏域連携会議 開催状況
 会議回数：5回
 テーマ：孤立しないまちづくりを考えるワークショップ、認知症の方の支援、8050問題、他

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

区地域包括ケア推進プロジェクト会議（継続）2回/年

多部門の課長・係長による会議を開催。関係各課の取組みを共有し、意見交換を行うことで、区内の連携を深めている。

【プロジェクトメンバー：地域保健福祉課、健康課、福祉・介護保険課、総務課、企画振興課、地域支援課、生涯学習推進課、支援調整課、他テーマに応じて関係部署への参加呼びかけ】

区地域包括ケア推進会議開催状況
 区地域包括ケア推進会議：1回
 部会：在宅医療・介護部会・権利擁護部会・生活支援・介護予防部会 各1回
 権利擁護部会のメンバーを交えた権利擁護研修会（気づきつながらる研修パッケージ）を初開催。

（2）その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
地域包括ケアシステムフォーラム	「災害が在宅医療に及ぼす影響」をテーマに、3名の講師による市民向けフォーラムを開催。
職能団体による主な活動 ①ケアマネット博多（介護支援専門員連絡会） ②博多区訪問看護ステーション会 ③博多区医療ソーシャルワーカー連絡会	①役員会、総会、定例会を開催。 研修会「ケアマネジャーのリスクマネジメント」「在宅医療とのさらなる連携にむけて」 ②定例会、交流会を開催。研修会「高齢者の排泄ケア」 ③交流会、情報交換会を開催。
・各圏域毎の事業所ネットワーク定例会 ・キャラバンメイト・ワンチームHAKATA定例会	各事業所ネットワークが、定例会を開催し、活動状況の共有や今後の事業展開を協議する。 認知症サポーター養成講座の講師（キャラバンメイト）を含む事業所ネットワークの集合体「ワンチームHAKATA」の情報交換を開催。
校区情報交換会	2回開催。地域支援課、校区担当保健師、地域包括支援センター、社会福祉協議会が、校区（地区）の実情や住民ニーズに沿った、より良い支援を行うための意見交換会を実施。